

平成 27 年度 千早赤阪村立学校園 評価報告書

学校園名（千早赤阪村立中学校）

校園長名（西岡 智）

1. 教育目標

【学校教育目標】

- 確かな学力をつける
- 豊かな心を養う
- 健やかな体を育てる

2. 経営方針

- 教職員全員の学校への参画意識の醸成
～効率的かつ効果的な職務遂行と職務への責任の自覚を促す
- 学校は教職員組織で動くことの意識を徹底させる
「報告」「連絡」「相談」の徹底を図る
企画委員会、職員会議の充実を図り、意思の疎通の徹底を図る
- 教師一人ひとりの授業力の向上と人権意識の向上
- 経験の浅い教職員の育成（「教師」として、「社会人」として）をめざす
- 新入試制度に対応する絶対評価の確立と工夫・改善
- 支援教育への更なる理解と実践

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		I 学力向上と教育力の充実
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○教師一人ひとりの授業力の向上～授業研究と研修の充実 ○スクールエンパワーメント（SE）事業の活用と研究の推進 ○絶対評価の確立と新入試制度への適切な対応
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○研修部を中心とした研究授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・授業点検項目（課題）を明確にした授業の実施 ・経験の浅い教員に対するきめ細かな指導 ・教育センター指導主事を招聘し、具体的な指導・助言をいただく ○スクールエンパワーメント事業による具体的な取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・自学自習ノートの継続的な実施 ・各教科における宿題の確認と点検の日常的な徹底 ・テスト前学習会・放課後学習会の実施 ・学習支援を要する個々の生徒の実態把握と支援 ・朝読書の継続実施と徹底 ○各教科における評価規準と評価基準の明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価による評定決定の各教科作成手順の確定 ・全国学力テスト、チャレンジテストへの対応 ・入試情報の的確な活用と進路委員会での慎重な判断と判定
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○授業改善の取り組み 経験の浅い教師が多い中で職員全体で授業改善のための方策を具体的に検討し、1学期から2学期への授業研究期間で実施し、お互いに点検評価を実施した。授業の構成自体から考える必要もあり、先生個々の教材研究及び授業力向上が必要である。 ○自学自習態度の育成 自学自習ノートや放課後学習（特にテスト前学習）等生徒が自ら学習しようとする態度は育成されてきているが、一部の生徒に「やらされ感」からの学習態度が見られることが課題である。 ○絶対評価及び入試制度への適切な対応 評価方法そのものの理解は進んだが、適切な評価に対する継続的な検証は必要
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○個々の教師の授業力向上への継続的な意識向上が必要 研修部を中心とし、SE事業を活用した授業改革の取り組みを更に推進する。個々の教師が具体的な目標と向上策を立て、取り組む。 指導主事からの指導助言及び先進校から学ぶ機会を設定し、活用する ○自ら学ぶ大切さを理解させ、生徒の学習への意識向上に努める。 ○学年によって大きく学力差が見られる中で、絶対評価の適切な評価決定と入試対応が求められる。周辺小規模校との連携により入試への対応をより慎重に進める必要がある

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		Ⅱ 豊かでたくましい人間性の育成
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども一人ひとりの個性を活かし、小さな成長を見逃さず、褒めて伸ばす教育活動の推進 ○自主的に行動し、自己表現ができる子どもの育成 ○「道德の時間」の教科化に向けての対応と人権学習の充実化 ○支援教育（発達障がいも含めて）への更なる理解と実践
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○学級担任を中心とした全校体制での「生徒理解」 <ul style="list-style-type: none"> ・綿密な情報交換と教員それぞれが生徒の「良さ」を見つける姿勢をもつ ○生徒の自主的な学校行事運営と意見や考えを積極的に表出する授業の創造 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会や各委員会の生徒の自主的な運営 ・生徒が意見や考えを交換してお互いに学べる授業の創出 ○「道德の授業」の計画的な実施と人権学習研修会（南人教、東人研）との連携 ○支援学級の個々の生徒理解と計画的な指導の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・個々の障がいに応じた教育計画と実践
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導上の「生徒理解」は生徒指導部会での情報交換によりきちんできてきているが、意識的に生徒の「良さ」を情報交換し、教師が生徒を肯定的に理解するよう努力する必要がある。 ○授業の中に生徒が意見を交換したりする場面を作るよう指示してきたが、定期的の実施するということができていない。授業構成の観点から改善する必要がある。 ○教育センターの指導主事を招いての研修を実施したが、道德の教科化に向けての取り組み（文科省の新しい観点からの内容理解）が不十分である。 ○支援教育担当教員を中心に個々の生徒の情報交換や進捗状況を交換し、計画的に支援教育を推進できた。長欠となっている生徒の対応が継続的な課題である。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○日常的に肯定的な「生徒理解」に教師が努めるとともに、生徒にも肯定的な自尊感情が育まれるような仲間づくりに取り組む ○アクティブ・ラーニングの手法を研究し、授業改善に活かしたい。 ○道德の研究授業を実施し、研修の機会を今年度同様もつ。 ○支援学級在籍生徒が3年生となるので、進路保障の観点からも一層保護者との連携を図る。本校支援教育推進のため、これまで通りSSW、大学教授等外部機関との連携を取りながら支援教育の充実に努める。

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

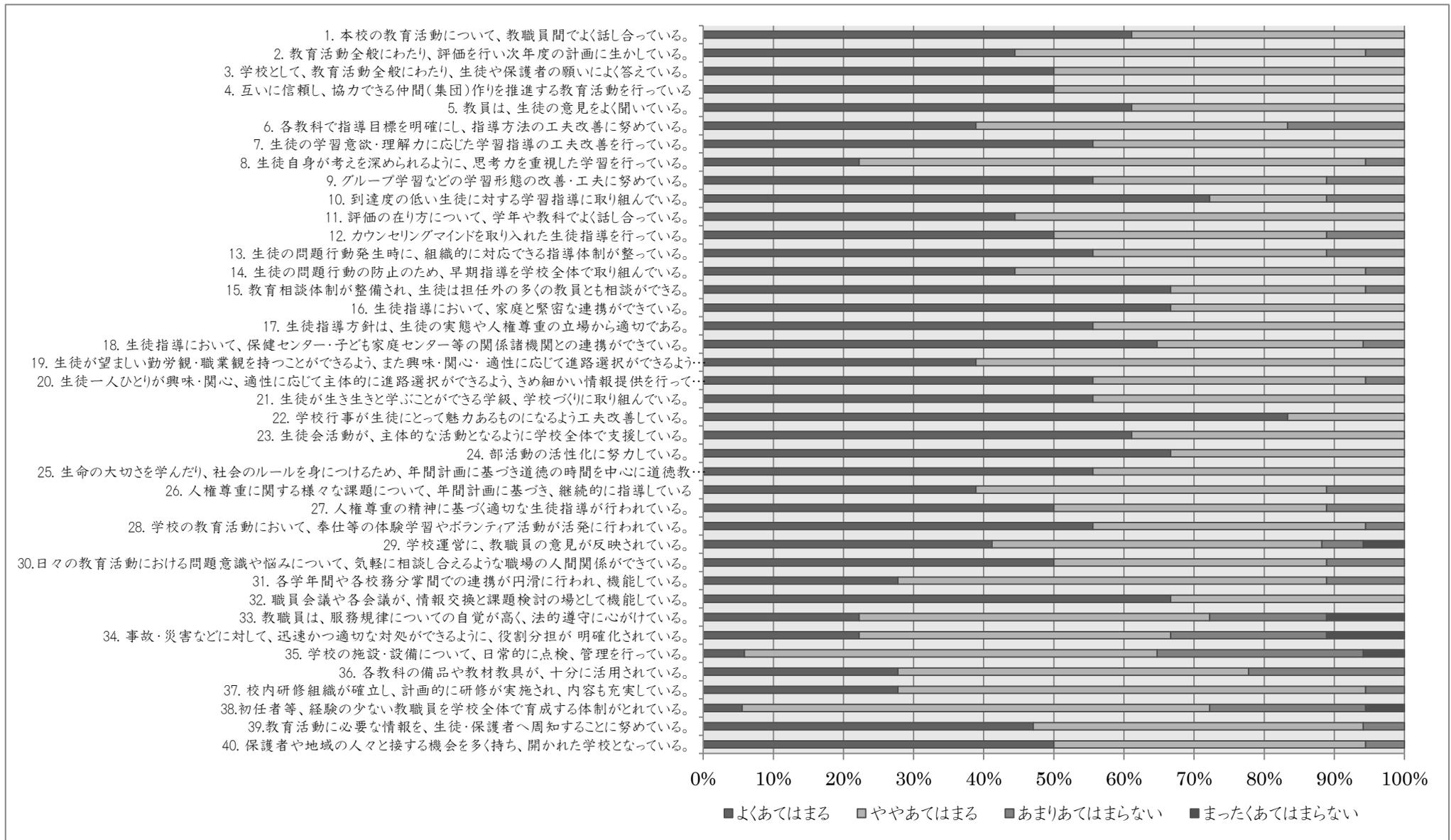
		Ⅲ 安全安心な学校づくりの推進
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめ・暴力・不登校ゼロの学校づくり ○高い人権意識に裏付けられた生徒指導・生徒理解 ○危機管理としての防災教育の充実・推進 ○学校施設に係る生徒の事故の未然防止
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○「教育相談期間」の設定と「いじめアンケート」の実施 各学期ごとに「教育相談期間」を設定し、担任が各生徒から聞き取りを行う。事前に「いじめアンケート」を実施し、回答にすぐに対応している。 ○南人教・東人研「未来塾」への参加 経験の浅い教師を中心として「未来塾」に参加して、仲間作りを考慮に入れた「生徒理解」を教育実践報告などから学ぶ機会とした。 ○避難訓練の計画的な実施と防災アドバイザーによる指導 防災アドバイザーから緊急時避難についての具体的な指導と搬送方法についての実習を教師、生徒ともに受けた。 ○日常的な施設の点検と即時の修理 危険と思われる個所については教委に報告をし、改善をお願いする。大規模な改修については予算立てを引き続き依頼する。
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめアンケート」に生徒が正直に回答してくれており、「いじめがあった」「見た」との回答があれば、すぐに対応し、解決してきた。 ○班編成・班活動による仲間作りに加え、自尊感情を持ちながらも、仲間を信頼していくような学級づくりという観点では弱い点もぬぐえない。生徒同士による問題解決力も付けてやる必要がある。 ○防犯の点では本校は施設環境的に不審者侵入は防ぐことができない。見知らぬ人への警戒心を持つことと教職員の連携で防ぐしかない。 ○緊急（大規模災害）時に何ができるのかを考えた訓練・実習の充実化 ○危険個所の早期発見のために、定期的な点検の充実を図る必要
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○教師による生徒指導だけでなく、生徒が課題として取り組んでいこうとする意識の醸成が必要。生徒会運動の一環としての取り組み等 ○他校の仲間作りの教育実践に学ぶ機会をもつ（研修会への参加） 学級づくりという観点における特別活動の取り組みの見直し ○引き続き、施設面での改善を教育委員会に要望し、防犯設備設置の予算獲得をお願いする。 ○防災アドバイザーの助言を取り入れた訓練・実習の実施 ○全教職員による最低月一度の定期点検の実施と教育委員会への報告

3. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		予備（各校独自の重点項目があれば記載）
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○経験の浅い教師に対する研修及び個々の教育実践力の育成 ○教育公務員としての自覚と職務に対する責任感の醸成 ○創造的な教育活動の展開（挑戦・工夫・改善） ○すべての教育活動での仲間（集団）づくり
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ○初任者、2年目、3年目教諭及び講師に対する管理職による授業観察と事後指導 授業だけでなく、日々の教育活動についての相談と対応を実施 ○職員会議や職員朝礼において、職務サービスについて適宜指導 新聞記事掲載の懲戒処分例などを示し、注意喚起を行っている ○各教職員からの日々の教育実践についての情報交換 ○学校行事を中心とした仲間（集団）作り
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○不定期的に授業観察と指導を行ったが、学校としての組織的な取り組みに至らなかった。管理職の指導により安心感を得たという感想もあったが、管理職だけでなく、経験豊富な教職員を巻き込んだ定期的かつ組織的な人材育成が必要と感じる。 ○懲戒処分に当たるような教職員の行動・行為はもちろん見当たらないが、職務専念義務という点で意識が甘い教師が一部見られる。引き続き、注意喚起をする必要がある。 ○日々の教育活動では、職員室では自らの実践の交換というより生徒の情報交換（生活面・授業態度）が大勢を占めてしまう。職員研修で自らの実践を交換するような場を設定したい。 ○3年生が各行事においてリーダーとなり、後輩をリードし、学校行事を成功させる本校の伝統は今年も引き継がれた。生徒が自ら考えて行事運営に関わる言う点では弱いという点は拭えない。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的かつ組織的な OJT の観点での取り組みが必要。 ○職員室等での細かな注意はしにくい点はあるが、注意喚起はしていきたい。 ○職員研修も含め、自らの実践を振り返らせ、発表する場を設定することも必要と考える。 ○教師の指示指導のし過ぎが無いのか、生徒が自主的に頑張ろうとする意識及び環境醸成を創っていく努力が必要。

4. 教育自己評価

【教職員による評価】



◇今年度、教育自己診断を実施、結果より（アンケート項目、グラフ参照）

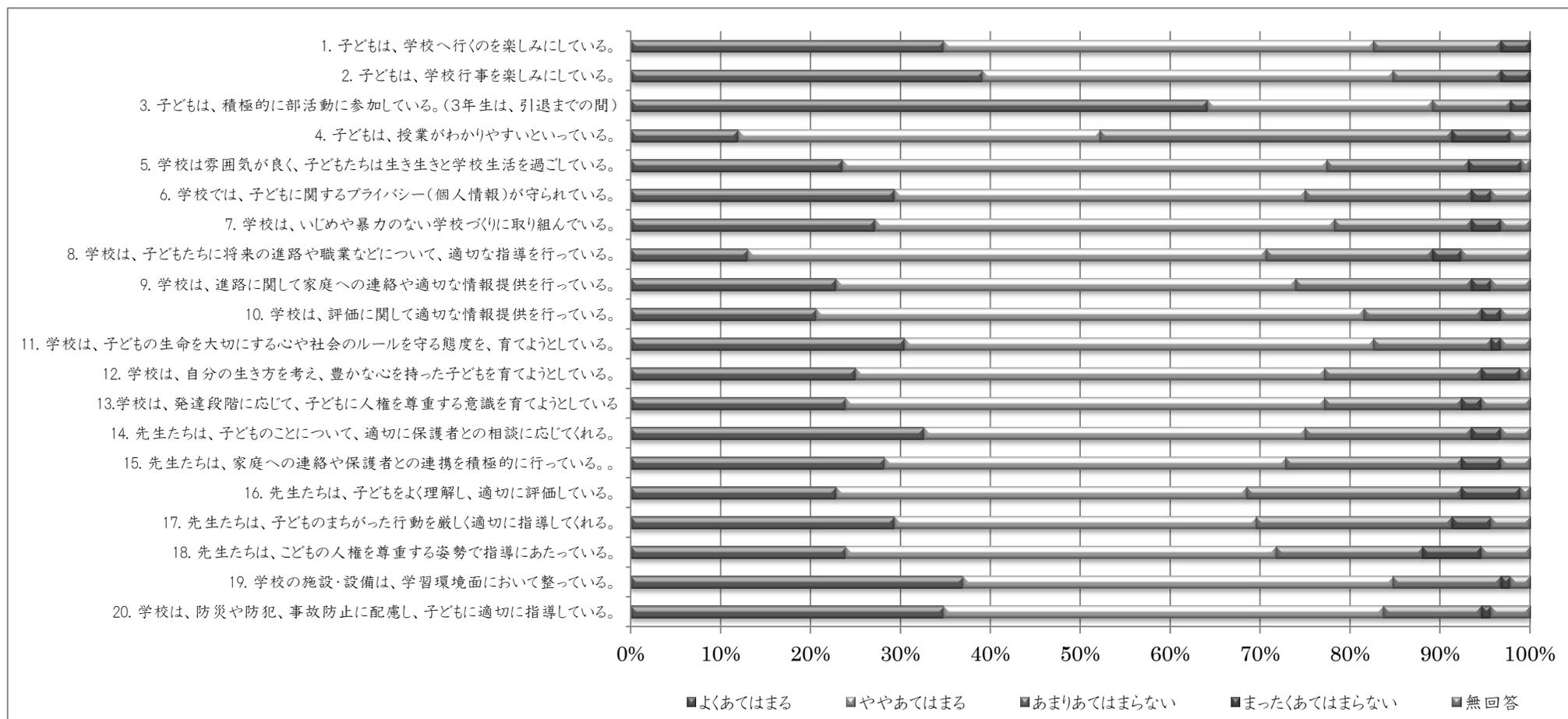
○教職員が肯定的にとらえている（「よくあてはまる」の50%以上）項目を見ていくと、

- ・生徒指導面では、教職員同士が連携を図り、組織的な対応ができていると評価している。また、教育相談体制も出来ており、カウンセリングマインドを取り入れ、生徒の意見をよく聞き、生徒指導を行っていると評価している。また、家庭や関係諸機関との連携も日頃よりできていると評価している。
- ・学校行事、部活動、生徒会活動など、生徒の主体的な活動となるよう工夫し改善し、活性化していると評価している。
- ・学習面では、生徒の学習意欲・理解力に応じた学習指導の工夫改善（グループ学習やペア学習の取り組み）を行っているとし、特に、到達度の低い生徒に対する学習指導に日頃より取り組んでいる（特に定期テスト前の放課後学習）と評価している。
- ・進路面では、生徒それぞれの興味・関心、適性に応じた進路情報の提供と指導ができていると評価している。
- ・奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発であると評価しているが、日頃からの清掃等教職員が率先して行う姿勢がある。
- ・職員会議や各会議で教職員が納得して進めている様子が自己診断よりうかがえる。

●教職員が否定的にとらえている（「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の合計25%以上）の項目を見ていくと、

- ・服務規律についての自覚があまり高くなく、法的遵守の意識が低いとしているが、これは、職員室でのおしゃべりやスマホを見ている等の行為を指して言っているのだと思われる。管理職から注意はするものの、教職員自らが自覚を高める姿勢を持つべき。
- ・事故災害時の役割分担が明確でないとしている。分担はしているものの、意識が高くないことが反映されていると思われる。生徒の安全に関わることなので、施設管理の点検・管理も含め、早急に対応したい。
- ・初任者等の育成に対して、組織的に取り組めていないと評価しているが、来年度は体制を作り、管理職だけでなく、経験豊富な教職員を巻き込んだ定期的かつ組織的な人材育成が必要

【外部アンケート等】【教育自己診断・保護者の結果より】



- 生徒が部活動に積極的に参加していると評価→日頃より、放課後、休日と教職員が部活動を熱心に指導している。
- 生徒が授業が分かりにくいと回答している保護者が、50%近くいることは、本校の喫緊で最大の課題である。経験の浅い教職員が増え、教職員が減っていく中で、初任者育成も含めて、教職員全体の授業力の向上が必要である。スクールエンパワーメント事業等を活用し、校内の授業研究体制の充実化が必要である。
- 保護者は、教職員の子ども理解が不十分としている。保護者から信頼を受けるために一層の連携充実が必要と思われる。

5. 学校園関係者評価

◇PTA及び地域の方々からの総合的な評価

- ・あいさつをしてくれるので、学校に来ると気持ちいい。観光に来た人からもお褒めの言葉を頂く
- ・クリーンキャンペーンをはじめ、棚田の清掃など美化運動に取り組んでいる。
第16回（2015年度）環境美化教育優良校として表彰を受ける。
- ・部活動に熱心に取り組んでおり、試合や大会などで小規模校でありながら、素晴らしい成績を収めていると評価をもらっているが、一部保護者より休日がない等の苦情も受けている。
- ・金剛バス利用の千早地区からの生徒の保護者より、スクールバスへの乗車を認めて欲しいとの声がある。
- ・SC、SSWとも緊密な連携をとり、情報交換を綿密に行っていることは、外部関係機関からも評価いただいている。

6. 第三者評価

◆特に、「第三者評価委員会」という形での評価は頂いていない。